

日時：2008（平成20）年10月25日（土）午前10時から午前10時50分まで

場所：福岡大学文系センター 15階 第七会議室

出席者：12名（編集委員10名＋支部長・参与＋事務局員・書記）

議長：太田一昭 編集委員長

記録：毛利（事務局）

#### 1. 学会誌採用論文について

『九州英文学研究』第25号（支部統合号）に採用された論文5本について、銓衡の経過と結果が支部長から報告された。書き直し指導を担当した編集委員の尽力のおかげで、5本の論文ともしっかりした内容に仕上がったことの報告があった。英語学部門の投稿者が例年少ないことに鑑み、今後、編集委員の役割として会員に投稿を促す努力も必要であることが指摘された。

#### 2. 編集委員会開催の件について

今年度は、投稿論文の審査結果が出た時点で書面会議の形で編集委員会を開いた。その経緯について支部長より説明がなされた。書面会議となった理由として、①締切日の8月2日（土）までに審査結果がすべて出揃わず、会議予定日の9日（土）に会議を招集するのが困難だったこと、②重大な懸案事項がなかったため、支部長（編集委員会参与）が委員長・副委員長と相談のうえ会議の招集を見合わせたこと、③海外出張のために国内に不在の会員がいたこと、などが挙げられた。来年度以降の審査スケジュールに関しては（編集委員会招集の有無も含めて）今後さらに検討することが申し合わされた。

#### 3. 学会誌『九州英文学研究』への投稿について

投稿論文の数と質を確保するために、中堅やベテランの研究者に論文投稿を慫慂してはどうか、という意見が出た。また、採用論文のうち特に優秀な論文に対して毎年賞を贈ってはどうか、という意見が出た。これらに関しては、今後、編集委員会で継続的に検討することが申し合わされた。

#### 4. その他

査読者（編集委員に限らず）が投稿論文審査に対する「責任」をもっと負うシステムが必要である、との意見が出た。査読の内容・結果の公開性に鑑み、査読者全員の審査結果を一つの電子ファイルで共有・公開するという案や、さらには、審査結果が出揃った時点で必ず会議を招集することの必要性を訴える意見が出た。これらに関しては、今後の継続審議事項とすることが決定された。

以上